

治安維持法は全民衆の社会的な生活と政治的自由を暴壓せんとする惡法なり、我等は之が撤廃を要求し、且つ今回の同法の改正の無暴を徹底的に糾弾し之が撤回を期す

昭和三年七月一日

### 関東合同労働組合第四回大會

#### 実行方法

右決議聲明書を政府當局に突きつけて、日労党と一致して、猛烈なる反對運動を起すこと

#### 治安維持法改正絶對反對

最近なる暴壓法令治安維持法は、既に全民衆の反對にも拘はらず強制的に制定された。一片の惡法は一切の社会運動の頭上に十年以下の懲役を以て臨み、社会運動の正當なる發展を極刑の脅威を以て阻止せんとするにある。然るに田中反動内閣は、内閣維持の爲めの一政策として、日本共産党事件の檢挙を鳴りもの入で断行し、之を證左として、更に小數大資本特權階級の貪慾と惡政を擁護安全ならしめんことの要求を代表し、今や十年以下の懲役たる極刑を改悪し、死刑を以て代へん

しつゝある。田中反動内閣々議は諸多の反對と困難を困難の名に壓倒消解して、六月十二日之が改悪を決定し、專横にも緊急勅令を以て制定せんとしてある。

然るに本改悪法は、五十五議会に於ては審議未了に終り議会は之が特別なる決定を必要とせずして、閉会せられた。今突如として改悪に必要なる事情も明示せずして、緊急勅令に依らんとするは、多數國民の反對を恐れぬこと、小數大資本特權階級の非法的要求を權力を以て實現せんとするものである。斯くて田中内閣は、自らの議案さへも否認して、特權階級擁護の立場を取らんとする。田中内閣は法の私用化をなさんとす。

台法的討論の無視を執行せんとす。社会的不安の社会的事實を隠蔽せんとす。

斯くて全民衆の言論、結社、集會、出版の一部の自由は徹底的に剝奪され、以て反動政治の安定を得んとするにある。

我等は健全なる日本社会の發達の爲め、國民自由の名に於てかゝる惡法の改悪に絶對反對を聲明するものである。